

～中山間地域&限界集落からアメリカ市場を目指した有機米作り～

<基本情報>

- 所在地：長野県伊那市
- 取組開始：平成29年
- 取組概要>
- 経営面積：9.5ha
- 構成員：7名
- 主要作物：水稻



<土づくりの取組>

- 「土の力を最大限引き出す米作り」をコンセプトに、無化学肥料での稲作に取り組んでいる。
- 農学博士の資格を持った者を社員として採用し、アカデミックな観点から栽培を改良。
- 著しく窒素が不足している圃場にはマメ科緑肥のヘアリーベッチを作付けする等、有機的な土壌改良を実施。

<地球温暖化抑止や生物多様性保全につながる取組>

- 生物多様性を保存するため、除草剤・農薬を使用しない栽培にこだわり、取り組み4年目となる2020年には、栽培する水田にゲンゴロウが生息していることを確認。



<効率的な生産に向けた取組>

- 有機農業でありながら効率的な生産を行うため、植え傷みの少ないポット成苗技術の「みのる式ポット苗箱」を用い、田植え後には乗用除草機による除草の初期防除に努めている。
- 長野県伊那市の山間地で、耕作しにくいため耕作放棄地となっている田んぼを借り受けて再生し、耕作面積を拡大。



<安定出荷・販路確保の取組>

- 2009年から、海外で日本産米販売事業を展開していたWakkaグループにおいて、「日本では美味しいとされている日本産米が海外では必ずしもウケる訳ではない」ことを経験したことが発端として、アメリカの消費者に好まれる米を作ることを目的として、2017年に「輸出米専門農業法人」株式会社Wakka Agriを設立。
- 輸出事業者のWakka Japanと連携し、農閑期には生産者が海外販売店（ハワイ、ニューヨーク・香港・台湾・シンガポール）に赴き、消費者に直接PRする等、国境を越えた持続可能な農業のPR活動を展開。
- 農作業の様子をSNSで、日々更新する等の情報発信にも力を入れ、順調に輸出実績を増加。

